



ひ  
や  
け  
き

摂南大学広報誌

- ◆ 学長通信 ～次代を指向した研究推進戦略～
- ◆ **特集** 学部紹介シリーズ① **食と農の課題に答える農学部**
- ◆ 就活・進路 内定状況

No. 16  
2022 MAR



学長

萩田 喜代一

## 次代を指向した研究推進戦略

### — 社会実践型の産官学連携研究を通して大学の価値を高める —

大学の使命とその価値は、教育と研究を通じた社会への貢献です。本学ではその使命を果たし存在価値を高めていくために、さまざまな活動や取り組みを通してそれらを実行・実現し、持続可能な社会の発展に寄与してまいります。皆さまには平素より本学の大学運営ならびに諸活動にご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

本学では、全ての教員が学生と共に日々研鑽・研究を重ねて、さまざまな分野で多くの研究成果をあげ、種々のメディアに取り上げられています。さらに、これまでに行政機関、医療機関、企業などと連携協定を締結して、研究支援・社会連携センターをはじめ各教員および研究所・研究センター（地域医療研究センター、地域総合研究所、融合科学研究所、先端アグリ研究所）などが教育活動や産官学連携研究（以下「連携研究」）を実施してきました（主な連携先については下表に掲載）。ここでは、本学の連携研究の考え方に触れるとともに、実績の一部をご紹介します。

#### 自学の発展と学生の成長を目的とした 社会実践型連携研究

連携研究が社会貢献のみを意図した場合には、その継続性や実効性などに限界がみられることが多々あります。その解決のためには、連携研究の目的が社会貢献であるとともに、大学の本務である教育・研究の発展も企図した「社会実践」であることが重要です。それこそが、主体的な取り組みの動機付けとなり、自学と学生の成長が社会の中でなくてはならない存在感を創出すると考えます。

#### シーズベースから ニーズベースの研究への転換

連携研究や活動にとって大切になるのが、大学の「シーズ（資源）」に基づくものから、社会の「ニーズ（要求）」に基づくものへの転換です。大学において研究者（教員）の多くが、個人あるいは研究グループの課題意識や興味から研究活動を遂行して多くのシーズを生み出しています。社会実践型連携研究を実現するために、「深い探究の眼」に加えて、個々の研究者や研究グループが柔軟性や多様性を持ち、企業や行政などの社会の声を広く聴くという「俯瞰的に観る眼」や「時代の流れや未来を予測する眼」を磨きたいものです。

#### 社会実践型連携研究の強化 価値創造のための取り組み

本学では、大学の価値を高めるために、教育力に加えて社会実践型連携研究の強化に取り組んでいます。そのために、学内の各種規定改正や体制の整備も進めました。その成果の一つとして、本学初の「大学発ベンチャー」の創出が実現しました（応用生物科学科・井上亮教授、本誌P5に記事掲載）。さらに、大学として取り組むべき連携研究の拠点である研究所などに対する支援強化を図るとともに、レベルの高い連携研究を創出するための研究力の強化策の検討を進め、2025年の本学開学50周年に向けて大学の価値をさらに高めてまいります。

#### 主な連携先（協定締結日順）

##### ■ 地方自治体・公共団体

寝屋川市（大阪府）  
交野市（大阪府）  
すさみ町（和歌山県）  
枚方市（大阪府）  
門真市（大阪府）  
大阪府枚方土木事務所  
由良町（和歌山県）  
大阪府都市整備部  
八幡市（京都府）

##### ■ 企業・経済団体

茨木商工会議所  
株式会社きんでんスピネット  
ニューロンネットワーク株式会社  
葛城市経済倶楽部（奈良県）  
オリックス野球クラブ株式会社  
藤田観光株式会社  
北大阪商工会議所  
株式会社池田泉州銀行  
千島土地株式会社

資生堂ジャパン株式会社  
株式会社morondo  
イオンモール四條畷  
有限会社類農園  
有限会社かみなか農楽舎  
北河内農業協同組合（JA北河内）  
枚方信用金庫

##### ■ 医療機関・医療系大学

関西医科大学  
大阪歯科大学  
星ヶ丘医療センター  
市立ひらかた病院  
枚方公済病院  
関西電力病院

##### ■ その他団体

一般社団法人三陸ひとつなぎ自然学校（岩手県）

# Close-up / SETSUDAI

社会の課題に応えるために積み重ねてきた研究の成果が連携のきっかけを生み、具体的な要請に対する解決策として実社会で動き始めています。その一部として、2人の教員の活動・取り組みを紹介します。

理工学部 都市環境工学科

熊谷 樹一郎 教授

## 低・未利用空間のモニタリングを目的とした 空き家分布の広域推定法の開発

少子高齢化社会の到来により、国や行政主導の施策として、一定の人口密度が保たれた中で高齢者が歩いて暮らせるまちづくりが進んでいます。一方、閉店・閉鎖した店舗や事務所、空き家や空き地といった、低・未利用空間の増加が危惧されています。施策実施にはまちの状態の長期的な調査と検証が必要ですが、空き家分布は重要な指標であるものの、まち全体の調査には膨大な労力と時間を要することが課題となっていました。

そこで、住宅の状態を示す既存のデータから、空き家率を推定する手法の研究により、「広域での空き家推定モデル」の構築に取り組んでいます。

■連携先 寝屋川市

### 研究目的

行政が定期的に収集・更新する住宅に関するさまざまなデータに着目し、ベイズ統計を応用して推定モデルを構築。大規模な現地調査を必要としない空き家の広域推定への寄与を目標に開発を進めています。

### 研究活動

寝屋川市と連携して市内の代表的な箇所について、水道栓の使用や建物の築年数など居住状況の判断材料となるデータを提供いただくとともに、現地調査を実施。現地調査は国土交通省の「空き家調査の手引き」を基にした「売り・賃貸物件となっている」「表札が取り外されている（戸建物件のみ）」などの項目と照らし合わせて行いました。

これらの情報を空き家推定モデルに適用し、推定精度を継続的に検証。精度を約80%以上まで高めています。現在は、現地調査結果の蓄積と詳細な分析を進めており、より推定精度を高め市内全域への適用を目指しています。

経営学部

塚田 義典 准教授

## AI for SDGs

～障がい者の就労可能性の向上に資するDX協働基盤の開発～  
私たちの身の回りに潜むAI。例えばスマートフォン画面のロック解除や音声認識はAIが担っています。AI開発には、画像のどこに何が映っているか、音（空気の振動）のどこからどこまで何が表現しているかといった、人が認識したいものの「答え」が必要です。膨大な「データ」と「答え」にアルゴリズムを適用しAIを完成させます。

私の研究室では、「データ」と「答え」を作る作業を障がい者の仕事として定着させるために、システムや運用モデルの設計に取り組んでいます。

■連携先 社会福祉法人太陽の家、株式会社オートボックスセブン、株式会社エー・ディー・イー

### 研究目的

本研究は「大学SDGs Action AWARD!! 2020」FINAL-IST賞受賞のアイデアの社会実装に位置付けられており、障がい者に就労機会を提供し、さらには今社会に必要なAIとは何かを考え、形にして、販売できる創造的な就労の機会を創出することを目的としています。

### 研究活動

昨年4月より産官学の共同研究体制を組み、10月には「ST-RISTEX「SDGsの達成に向けた共創的研究開発プログラム」」に採択。現在、障がい者へのヒアリングを重ねながら開発を進めています。月1回の定例会にはゼミ生もオンラインで参加し、議事録作成、調査結果報告、積極的な意見交換を重ねています。今夏までにシステムのプロトタイプ完成、秋頃から実証実験開始、5年以内の実用化を目指します。



荻田学長と熊谷教授(写真左)、塚田准教授(写真中央)

## INDEX

学長通信 ..... 02  
～次代を指向した研究推進戦略～

### 特集 学部紹介シリーズ①

食と農の課題に応える農学部 ..... 04

就活・進路 内定状況 ..... 08

SETSUDAI NEWS ..... 10

奨学金 ..... 10

後援会 ..... 11

本学では、新型コロナウイルス感染症への対応として、全学生・教職員への感染リスクを最小限にするべく、最新情報の入手と注意喚起に努めております。今後予定している各行事などにつきましては、状況を注視しつつ、その動向・変化に応じて変更となる可能性があります。新しい情報は本学ホームページにて随時お知らせします。本誌に掲載の写真は、新型コロナウイルス感染症対策を講じたうえで、撮影時のみマスクを外して撮影しています。

# 食と農の課題に応える農学部

学部紹介シリーズ第1回となる今回は、2020年4月にスタートした農学部の使命と、それを実践するための教育、研究、社会貢献などの取り組みをご紹介します。

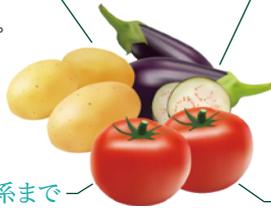
## 食と農の課題へのアプローチ

暮らしから社会、地球環境まで。多様な食と農の課題に、農学の基礎と4学科の専門性を発揮し取り組んでいます。

農業生産  
学科

安全・安心かつ安定的な作物を  
つくる

植物の病気や生産環境について研究。生産効率の向上および新種の野菜・果物の生産技術開発などに取り組んでいます。



食品栄養  
学科

食品の機能性から  
健康を支える

食品の機能性、栄養、食育などを科学的に研究。農産物の幅広い知識を持ち、食の安全と健康、医療、食育に貢献する管理栄養士の育成に取り組んでいます。



応用生物  
科学科

ゲノム分子から生態系まで  
生命科学で生産を支える

植物、動物、海洋生物、微生物などの生命活動から原理やしくみを研究。それらの成果を農業へ応用・活用することに取り組んでいます。



食農ビジネス  
学科

生産から消費までの課題に応え  
国内外に届ける

農産物や食品を日本や世界に安定的に届けるため、生産・加工・流通・消費などの経済活動を研究。経済、ビジネス、マーケティングの観点から「食」と「農」のしくみ改善や課題解決に取り組んでいます。



先端アグリ研究所

食と農に関する先端研究の推進および地域社会への貢献を目的として学部開設と同時に立ち上げました。農学、工学、情報科学、社会科学および関連領域において、学内外の機関との連携の拠点として機能することを目指します。毎月開催する「摂大農学セミナー」をはじめ、研究シーズ集の発行など多彩な活動を通して社会に寄与していきます。

先端アグリ研究所  
オリジナルサイト



農 × 地域

すももサイダー開発プロジェクト

地域農業の6次産業化に学生が奮闘 4学科の総合力を発揮し地域と連携

枚方市の名産「杉すもも」の課題

枚方市杉北町では明治後期より日本すももの在来種が栽培され、大正時代には産地として広く知られるようになりました。昭和に入り終戦後からは、山地を開墾、造成して杉すももの生産団地作りに取り組み、最盛期には14軒の農家が生産組合を結成するに至りました。

しかし、高齢化などにより徐々に生産者・生産量が減少。地域の資産である特産品を守り伝えるためには、地域振興および農業振興に結び付く新たな取り組みが課題となっていました。



プロジェクトを指導した山田教授(写真左)と参加した農学部の学生団体「農業研究会」「Food Innovating Team」のメンバーたち



すももの収穫(6月下旬から7月下旬)

枚方市・産地と連携し取り組んだ6次産業化

昨年3月に枚方市と締結した連携協定に基づき、本学農学部は枚方市と山口農園(枚方市杉北町)と連携し、すももの6次産業化に取り組みました(連携協定については本誌P6に記事掲載)。枚方市からの要請に応じて、農学部内でプロジェクトを立ち上げ、すももを使用したサイダーを開発。昨年末までに約1万本を製造しました。

注目される農業の6次産業化

農業の6次産業化とは、1次産業としての生産に、2次産業としての加工、3次産業としての販売を取り込むことで、地域資源を活用して新たな付加価値を生み出し、生産地を活性化するための取り組みです。

4学科の総合力を発揮

開発には、山田徳広教授(食品栄養学科)の指導の下、本学部有志学生約40人が参加し、収穫から種取り・搾汁、レシピ考案、試作、ラベルデザインまでを手掛けました。香料・着色料を使用せず、すもも本来の味わいを活かしたことが特長。搾汁前に電子レンジで酵素の働きを止めることで、鮮やかなピンク色を引き出しています。一連の工程が生きた学びの機会になるとともに、4学科それぞれの日頃の成果が総合力として発揮された、本学部ならではのプロジェクトとなりました。

完成した商品は学内コンビニエンスストアで販売しているほか、枚方市のふるさと納税返礼品としても採用されています。



一つずつ丁寧に手作業で行う種取りの工程

■ 2022年3月現在、ふるさと納税サイト「さとふる」で受付中

[https://www.satofull.jp/products/detail.php?product\\_id=1281289](https://www.satofull.jp/products/detail.php?product_id=1281289)





# 侵入害虫 と闘う

農業生産学科 石川 幸男 教授



Point

- 農業を使わず害虫を防除
- 害虫の生態を分子レベルで解明し応用

海外から侵入し人に脅威を与えるのは、新型コロナウイルスだけではなくありません。作物を食い荒らす害虫も絶えず侵入してくるため、警戒と早期防除が欠かせません。ツマジロクサヨトウというトウモロコシの害虫が、本来の生息場所であったアメリカ大陸から急激にその分布を拡大し、日本に毎年やってくるようになってきました。私は、この虫のメスがオスを遠くから呼び寄せるために使う「性フェロモン」の化学合成品を使って、日本へ侵入してきた個体をいち早く検出する手法について研究しています。



受賞論文は「害虫防除に向けたガ類の性フェロモンにおける分子基盤研究と新規生殖操作・配偶行動の発見」。日本農学賞は、日本の農学研究者間における最高の栄誉とされています。

【キーワード解説】  
【農業を使わない害虫防除】  
害虫の交尾を阻害し次世代の発生を抑える合成性フェロモンは、益虫や他の生物への悪影響がなく、農業に頼らない防除方法として注目されている。



# ポリフェノールで 疾病予防

食品栄養学科 岸本 良美 准教授



Point

- 疾病予防を目指したポリフェノールの機能性研究
- 日本人のポリフェノール摂取状況について調査

食品には栄養素とともに、多くの有益な生理機能を持つ成分が含まれています。私はその中でも『ポリフェノール』と呼ばれる成分に着目し研究しています。ポリフェノールには、血中の脂質の酸化を抑えたり、血管の機能を改善したりといった動脈硬化予防につながる多面的な機能があり、どのようなメカニズムで作用するのか、培養細胞などを使って詳細に検討しています。

一方で、日本人が何から、どのくらいポリフェノールを摂取しているかについて、食品中のポリフェノール量のデータベースを作り調査したところ、コーヒーと緑茶が2大摂取源で、約8割が飲料由来であり、年齢が高いほど摂取量が多く、季節差があることが分かりました。さらに、健診受診者や地域住民を対象とした疫学研究で、ポリフェノールの摂取量が多い群では、酸化ストレスの指標が低いことや、全死亡ならびに冠動脈疾患死亡のリスクが低下していたことが明らかになりました。

ポリフェノールをはじめ食品の機能性研究を通じて、人々の健康増進に資するとともに、学生の食や科学への興味関心の向上にも貢献できればと願っています。

【キーワード解説】  
【機能性食品成分ポリフェノールの動脈硬化予防作用】  
ポリフェノールは植物性食品に広く含まれる成分。基礎・臨床・疫学研究が進んでおり、動脈硬化などの慢性疾患の予防につながる事が期待されている。



# 腸から人と 動物を健康に

応用生物科学科 井上 亮 教授



Point

- 国内屈指のデータベースを確立し、腸内細菌叢検査サービス「Flora Scan」を社会実装
- 一般利用可能な「Flora Scan」に、大学発ベンチャー「FloraDiscovery」の解析技術が貢献

古代ギリシャの医師で現代医学の父ともいわれるヒポクラテスは、「すべての病気は腸から始まる」という言葉を残しています。遠い昔に残されたこの言葉が、現代の最新科学によって証明されようとしています。我々を含む動物の腸には1000種類にも及ぶ細菌が棲んでいて、我々の食事・運動など生活習慣に応じて腸の中で陣取り合戦をしています。近年の研究で、腸の中で悪い細菌が良い細菌よりも優位になると、お腹の病気だけではなく、こころの病気、生活習慣病、アレルギーなどさまざまな病気のリスクが高まる事が分かってきました。この腸内の細菌は当然、我々ヒトだけではなく、ペットや家畜などの動物の健康や病気にも深く関わっています。

私の研究室では、腸、特に腸内に棲む細菌の役割を調べたり、良い細菌を増やす方法を探索したりすることで、腸から人や動物を健康にするべく日々研究を行っています。これらの研究を基に、産学連携で「Flora Scan (フローラスキャン)」を社会実装しました。その解析に本学発ベンチャー企業「FloraDiscovery (フローラディスカバリー)」の技術が活用されています。



本学初の大学発ベンチャー企業を設立



# スパイスでつなぐ 暮らしの向上と生態系保全

食農ビジネス学科 田中 樹 教授



Point

- 「ヒトvs自然」ではなく「ヒトも自然も」
- 在来農耕などの知恵 = 在来知を活かした地域開発

アフリカ大陸東部に位置するタンザニア東部のウルグル山域は、アフリカ有数の生物多様性のホットスポットです。そこに住む人々は、焼畑からの穀作物や野菜、屋敷林からのバナナや果物などで生計を維持しています。現地政府は森林保護区を設け、人々は暮らしのため農地を拡大しようとします。これは、地域開発の現場でよく見る「ヒトVS自然」の構図で、解決の糸口を見つけるのは容易ではありません。私の研究は、これとは異なる「ヒトも自然も」一すなわち、暮らしと生態系保全の両立を可能にする新たな地域開発のアプローチの形成とその実践展開です。

ウルグル山域では、スパイス作物(例えば、バニラやカルダモンなど)の産地形成に取り組みました。高値で取引されるスパイスは、貧困削減に役立ち、栽培に投入される労力や経費、資材が少なく、高齢者世帯など社会的弱者層でも容易に取り組みます。栽培の場である屋敷林や樹園地が増えれば、土壌侵食の抑制や水資源の保全ができ、いずれは、タンザニア版の里山景観となります。このアプローチの特徴は、日常の暮らしの営みを通じて、貧困削減と生態系保全が同時に実現できることです。現在、この取り組みをタンザニア島嶼部・ザンジバルや奄美大島での地域活性化に展開しつつあります。



## 農学部研究室紹介

農学部では、食と農に関わる広範な領域において、多様なテーマで課題解決に取り組んでいます。各研究室について、詳しくはこちらから(本学ホームページ 農学部「研究室紹介」) ▶



# 地域の要請に応える 社会貢献・地域連携

## 農 × 産官学

### 教育・研究の両面で進む社会実践型連携

(有)類農園(奈良県宇陀市)、(有)かみなか農楽舎(福井県若狭町)と、稲作実習やインターンシップ学生の受け入れ、教育・研究での連携などを目的とした包括協定を締結。JA北河内(枚方市)とも、産業振興や食に関する事業展開などに関する人材の育成や交流を目的とした協定を締結し、連携を図っています。

#### 近畿農政局による特別講義を実施

昨年6月25日、食農ビジネス学科1年次の必修科目である「基礎ゼミナール」で、近畿農政局次長の遠藤順也氏を迎え、特別講義を開催しました。遠藤氏から「我が国農業の課題と近畿農業の状況」をテーマに、近畿農業の概要、日本農業の全体像や取り組み、農林水産物・食品の輸出拡大の取り組み、スマート農業、和食の普及と関西の食文化などについて幅広く紹介がありました。近畿地方の事例を取り上げるなど、学生が理解しやすい内容で、1年生にとっては、日本の農業、そしてより身近な近畿農業について知識を得る貴重な講義となりました。



#### J A北河内主催「枚方市農業まつり」に出展

昨年12月4日、枚方市農業まつりに出展。2年目となる今回は、地元農家の方々が新鮮野菜を販売される中、購入者先着500人に、本学部コーナーですももサイダーまたは附属農場で採れた野菜を提供しました。



#### Vリーグ公式戦会場ですももサイダーと野菜を販売

1月15日、枚方市を本拠地とするパナソニックVリーグ団体、パナソニックパンサーズの公式戦会場(パナソニックアリーナ・枚方市)で、すももサイダーと附属農場で採れた野菜を販売し、本学のPRを行いました。枚方市とパンサーズ後援会の協力、本学部協賛の下、枚方市民500人を招待して開催されたもので、盛況のイベントとなりました。

#### ● 附属農場で採れた野菜を学内でも販売 ●

昨年12月から、枚方キャンパス8号館(農学部棟)内のコンビニエンスストア(運営:株常翔ウェルフェア)にて附属農場で収穫した野菜を販売しています。主に火曜日・金曜日に、採れたて新鮮野菜を提供。これまでにサツマイモ、ダイコン、カブ、ホウレンソウ、サトイモ、チンゲンサイ、ハクサイ、ニンジン、トマトなどが店頭に並び、即日売上の好評をいただいています。



## 農 × 地域

### 枚方市と新たな協定締結

昨年3月25日、枚方市と農業振興や食に関する事業の実施し、人材の育成や交流に関する事項を追加した、新たな包括連携協定を締結しました。さらなる官学連携の強化と、農業をはじめとした地域社会の活性化に取り組んでいます。

## 農 × 高等学校

### 高大連携プログラム

周辺地域の高等学校との連携の下、共に人材育成に取り組む「高大連携プログラム」を積極的に展開。高校生が大学の教育研究に触れ農学に興味を持つ機会として、出張講義をはじめ本学キャンパス内での講義や実習などを実施し、大学への学びの移行を促進しています。

#### 枚方高校でSDGs出張講義

昨年11月11日、農学部教員8人が枚方高校1年生280人を対象に、「農学とSDGsの関わり」について出張講義を行いました。主な講義テーマは、①私たちの命を支える植物の話、②SDGsと植物バイオテクノロジー、③地球にやさしい調理の秘密、④農と食をむすぶ食品流通の役割。

SDGsに関する知識や気付きを得て、関心を高めるきっかけを提供することができました。



#### 京都府私立中学高等学校理科研究会(教員対象)研修会を実施

昨年11月27日、中学・高校教員約20人を対象に、石川幸男教授(農業生産学科)が昆虫の生理生態をテーマに講義、加藤裕介講師(応用生物科学科)らがトランスジェニック植物の作成・検出に関する実験・実習を行いました。最新の知見の下、最先端の分析機器を使用するなど専門性の高い研修会となりました。

#### ● その他の高大連携の取り組み ●

- ・ 枚方高校 生物飼育部が実習(観察)を体験(増田太郎准教授ほか:応用生物科学科)
- ・ 京都女子中学校の生徒にSDGs講義を実施(谷口葉子准教授:食農ビジネス学科)
- ・ 交野高校生徒対象 高大連携協定プログラムで実験・実習体験を実施
- ・ 丹後緑風高校(京都府京丹後市) アグリサイエンス科1・2年生を対象に見学会を実施
- ・ 大阪府農業系高校教員対象の農学部見学会(大阪府農業教育研究会)を実施



### 保護者対象の教育懇談会

保護者対象の教育懇談会を毎年開催。昨年11月6日実施の秋期教育懇談会では、農学部の保護者33組(48人)の参加がありました。担任教員に学修状況や就職、資格、奨学金、学生生活などについて熱心に相談があり、心配が解消された様子などがアンケートから伺えました。懇談後、学内施設を見学されるなど学修環境にも満足いただけました。

### 教育の質を上げるFD/SD

昨年11月29日、農学部教職員対象のFD(Faculty Development)・SD(Staff Development)講演会を開催。本学学生相談室の職員が講師となり、コロナ禍において、学業や学生生活で困っている学生の現状やアンケート結果に基づく分析と、教員がどのようにケア対応していくかについて、事例を踏まえた説明があり、研修に取り組みしました。

# 教育TOPICS

## 稲作体験実習を実施

農業基礎演習／全学科1年次必修

昨年10月9日、10日、16日、17日の4日間、(有)類農園三重農場(三重県度会町)、(有)かみなか農楽舎(福井県若狭町)で稲作体験を実施。手作業での稲刈り・はさ掛けと、農機操作を体験しました。実習後、現地農業生産法人の講師から地域の歴史的背景や作物栽培の意義などの講話を聴き、質疑・応答を活発に行いました。



類農園三重農場



かみなか農楽舎

## 「命に向き合う」ポスター展示と発表会を実施

生命倫理／全学科1年次必修

昨年12月21日、最終成果発表の場としてチームごとのポスター展示と発表会を実施。授業では、「産業に供される生き物」の「命」にどのように向き合うかについて学んできました。当日は71班に分かれ、「動物の命・ヒト以外の生き物の命」をテーマに、ペット産業や動物園のアニマルウェルフェア、フォアグラの生産など、学生らがそれぞれの問題意識でテーマを設定。産業構造や諸外国の状況などについてポスターにまとめ発表し、質問に答えました。「命の産業」の現実を正しく理解したうえで、「命の重み」に真摯に向き合う姿勢が見られました。

## 1年を通じた農場実習が終了

農業生産学実習Ⅰ・Ⅱ(農場実習)／農業生産学科2年次必修

農場実習で、1年を通じて毎週作物の栽培および生育管理を学修しました。作物は、ナス、トウガラシ、キュウリ、ミニトマト、ジャガイモ、タマネギ、サトイモ、ダイコン、ハクサイ、キャベツ、ブロッコリー、ホウレンソウ、チンゲンサイ、ミズナ、コマツナ、パングー、ストック、ブドウなどの野菜、花卉、果樹の多品種に及びます。播種から、育苗、耕耘、施肥、定植、灌水、生育期間中の種々管理(除草、防除、摘心、誘引、ホルモン処理、剪定等)、収穫、調整までの作業全般を行い、農作物の栽培管理に関する基礎的な知識と技術を修得しました。



トウガラシの収穫



ダイコンの品評会

## 農福連携施設を視察

基礎演習Ⅲ／食農ビジネス学科2年次必修

昨年10月7日、9日、14日、16日の各日に分かれて、社会福祉法人さんさん山城(京都府京田辺市)の視察を行いました。近年、農業分野と福祉分野の連携事業が進められており、さんさん山城では、現在34人の利用者が農業、加工、カフェ運営をされています。学生たちは、万願寺唐辛子の収穫・調整作業、濃茶大福づくりを体験。地域から支援されるのではなく、地域に貢献する取り組みから、多くのことを学んだ学外研修となりました。

## レシピコンテストを開催

基礎ゼミナール／食品栄養学科1年次必修

昨年9月9日、枚方キャンパス調理実習室で、「摂大生に食べてほしいメニューコンテスト2021」決勝戦を行いました。大学の食堂を運営する(株)常翔ウェルフェアの協力の下実施されたもので、学生が16チームに分かれてメニューを考案。事前にポスターにまとめ、人気投票を行い、上位3チーム10人が決勝戦当日、選ばれた自慢のメニューを作りました。審査の結果、優勝はチーム・ナンに決定。11月、実際にレストラン「結」で食堂メニューとして販売されました。



▲ 決勝戦での学生調理



◀ 優勝したメニュー「眠気に負けない3種のナンカレー」

## 学生らが応用生物科学科紹介パンフレットを制作

応用生物科学科の2年生有志が中心となり、研究室、授業概要、大学生生活～1日の過ごし方、受験生へのメッセージなどを盛り込んだ学科紹介パンフレットを制作。オープンキャンパス来場者や受験生、高校教員、企業などに配付しています。今後も学生有志による広報チームとして、活動を続けていく予定です。



8ページにわたって紹介

## ◆大学院「農学研究科」の設置を構想中(2024年4月設置予定)

本学では、農業生産学科、応用生物科学科、食品栄養学科、食農ビジネス学科で構成する農学部を基礎として、より深い専門性を養うとともに、食と農を巡る多様なステークホルダーと連携・協働できる実践力を持った高度専門職業人や研究者を養成するため、新たに大学院農学研究科を設置するべく準備を進めています。

農学の高度専門性を深め、食と農に関わる専門職業人として社会で活躍する人材育成を進めていきます。選考方法や学費、経済的支援制度など、詳細は決まり次第本学ホームページなどでお知らせします。

(設置概要)

研究科名	専攻名	課程	修業年限	入学定員	収容定員	学位
農学研究科	農学専攻	博士前期課程	2年	20人	40人	修士(農学)
		博士後期課程	3年	3人	9人	博士(農学)

※設置構想中であり、内容などは変更になる場合があります。

学生のニーズに幅広く応え  
就職活動を徹底サポート

# 就活 進路 内定状況



## コロナ禍で変化した就職活動の進め方

### 2022卒生(2022年3月卒業・修了生)就職活動の総括

- ① コロナ禍に対応したWebによる説明会、採用面接の活発化
- ② Webによる1day仕事体験の増加
- ③ 諦めずに選考に臨む学生が活路を見出す

2022卒生の皆さんは、コロナ禍により幾度も緊急事態宣言が発出される中、就活をよく頑張りました。3年生からWebによる就職ガイダンスや仕事体験に参加し、自己分析や企業研究を深めました。4年生になる前の3月からWebによる説明会や採用面接に臨み、内々定を獲得しました。その間、就職部・枚方事務室就職

係の職員とWebや対面の面談で履歴書添削や面接練習を積み重ねることで、自信を得て着実に成長していきました。

面接で志望動機がうまく話せなかったなど、結果を出せず落ち込むこともあったと思いますが、自分に合った企業を見つけようと熱心に取り組み、結果を得ることができました。

### 2023卒生(2023年3月卒業・修了見込生)の就職活動のポイント

- ① 早い段階からの自己分析、企業研究
- ② 学内のセミナー、説明会行事への積極的な参加
- ③ “行き詰まっても行き詰まっていなくても”就職部・枚方事務室就職係を有効に活用

2023卒生の中には、3年生の早い段階からインターンシップに参加し、自己分析や企業研究を進めている学生がいます。こうした学生たちは就活に向けた事前準備が十分にできているため、3月からの企業説明会や採用面接などにも比較的スムーズに臨んでいる傾向にあります。自己分析の結果、課題に気づき目標を持って努力したり、仕事に対する自らの価値観を掘り下げ、目的に向けて企業研究したりと自分に合った準備によって得られた成果を存分に発揮して、自身が納得のいく就活を推し進めてください。

#### ■ まずは企業説明会に参加してみよう

一方、まだ自己分析や企業研究などが進んでいない場合は、まずは業界を絞り過ぎず、学内外の企業説明会に積極的に参加してみましよう。保護者の皆さまからも声掛けいただきます

ようお願いします。説明会で企業の話を知ることができるのは学生の特権です。さまざまな業界の仕事を知って視野を広げ、自分に合った企業を見つけて選考に臨むことが大切です。最初は自分に合わないと思っていた業種でも、説明を聞くうちに興味が湧き、応募して内定に結びつくケースは多くあります。

#### ■ 履歴書添削、面接練習など気軽に相談を

並行して、履歴書も早めに完成させるよう、ぜひ家庭でも話題にしてください。就活を進める過程で、「志望動機が浮かばない」「面接でうまく話せない」などたくさんの悩みが出てきます。そのような時は、ぜひ就職部・枚方事務室就職係を活用ください。履歴書の添削や面接練習の対応を行っています。行き詰まっている時はもちろん、行き詰まっていない時も、より自分らしく取り組めるようバックアップしていきます。

### Information

- 病院フェア(Web)  
4月9日(土)(予定)・薬学部
- 個別面談・随時実施中
- 模擬面接・随時実施中

就職部・枚方事務室就職係では、Web・対面で就職活動をサポートしています。

就職部・枚方事務室就職係では、履歴書の添削や面接練習、就職相談を対面だけでなくWebでも行っています。これらを何度も繰り返すことで、確実に自信につながっていきます。

さまざまな不安や悩みが絶えない就活ですが、どんな些細なことでも結構ですので、気軽に相談窓口を活用するように声掛けください。



## 充実の摂大就活サポートメニュー（一部）

### 就職ガイダンス【年3回予定】

就業意識の形成から、業界研究、エントリー方法、履歴書の書き方、自己理解やアピールポイントの整理など順を追って学べるガイダンス。就活への意識が形成できるため、スムーズなスタートダッシュにつながります。

### 進路登録&履歴書作成面談【3年次（薬学部は5年次）】

学生が希望する業界や職種などをデータ化し、学生一人ひとりと面談を進め、進路相談や自己PRの作成、履歴書の書き方や書くべき内容をアドバイスします。

### 業界企業研究会【12月頃】

企業の採用担当者から、業界の現状や展望、求める人材などを解説していただきます。話を直接聞くことで、業界への興味が深まり、企業選択の大切な材料になります。

薬学部・看護学部では、病院のほか製薬会社や治験会社などからの協力も得ています。

### 徹底した個別面談と模擬面接【随時】

エントリーシートや履歴書の書き方、面接の仕方、就職活動中の心構えなどを個別でアドバイス。「面接で苦戦している」「自己PRがうまく書けない」など悩みに応じて随時相談を受け付けます。

### 求人検索システム「セツナビ」【随時】

就活をバックアップする本学独自の求人検索システム「セツナビ」。本学宛に企業から届いた14,200社以上の求人情報（2022年2月現在）を閲覧でき、応募締め切りや説明会情報など、個別のスケジュール管理も可能です。

### 学内合同企業説明会&個別企業説明会【2月頃～】

学内合同企業説明会は、多くの業界に触れ、自分がどんな業界に興味があるのかを知るきっかけになります。一方、1社からじっくりと話が聞ける個別企業説明会では、進みたい業界や企業について知識をより深めることができます。

薬学部・看護学部では、実験実習などで連携している病院との座談会や合同説明会も実施しています。

## 先輩学生に聞く ～嬉しかった保護者からのサポート例～

家族に面接での受け答えを聞いてもらい、振り返りを手伝ってもらった。反省点が見つかるなど頭の中を整理でき、アドバイスももらえてありがたかった。  
(内定先:株式会社日本サンガリアペパレッジカンパニー)

志望する業界で母が働いており、仕事の詳細を教えてくれてイメージが湧いた。  
(内定先:株式会社かんぼ生命保険)

父は社会人としての経験談を聞かせてくれて、母はいつでも愚痴を聞いてくれた。  
(内定先:トールエクスプレスジャパン株式会社)



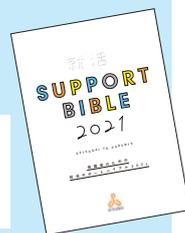
就職部への相談に加えて、家でも客観的な視点でエントリーシートなどを見てもらい、完成度を高めることができた。何も言わず、ただ付き合ってくれたことが嬉しかった。  
(内定先:大和ハウス工業株式会社)

### 『保護者のための 就活サポートバイブル2021』

保護者だからできるサポートや就活の流れを冊子にまとめています。



本学ホームページからPDFをご覧いただけます。



## 内定者に聞く ～摂大就活サポートを活用し、希望の進路を獲得～

### 就職部の方と会話する中で自分の思いが整理され、より明確な志望動機を面接で伝えられました

就活前はどんな仕事をしたのかが分からない状態でした。そこで、外部の合同企業説明会に参加。いろいろな会社を見るうちに、資格を持つプロとして人と人をつなぐ不動産売買仲介業に魅力を感じ、12月頃には志望の意志が固まりました。この頃、就職部へも就活の進め方を相談。履歴書の添削も受け、2月頃から10社ほどエントリーしました。初めての面接では思いを伝え切れず不採用に。その悔しさをきっかけに就職部の方や友人に相談して自分の考えを整理し、面接練習にも力を入れました。その結果「入社後、具体的にどう成長したいか」を熱意を持って伝えることができ、内定を得ることができました。



法学部  
法律学科  
中川 裕也さん

### 臨地実習で得たさまざまな病院での経験が、将来を考える上での基盤となりました

3年次に就活サイト主催の病院合同説明会をはじめ病院の見学や説明会に積極的に参加しました。4年次の5月に採用試験を受け内定をいただきました。志望先を決める際には自分の考えがまとまらず悩みましたが、臨地実習で看護師の方々の仕事ぶりに触れる機会が多くあり、目標とする看護や将来のキャリアについて考えを深めてきたことが役立ちました。ゼミの先生にも親身に相談に乗っていただき、実習時の手厚い指導や多数の先輩の存在も後押しとなり、納得して決めることができました。就活に不安はつきものの。先生や友人に相談することも大切です。学生生活で得た経験に自信を持って頑張ってください。



看護学部  
看護学科  
宮崎 志穂さん



## 理工学部

## 生命科学科 Awards

### キッチンのプロトン輸送機構について新しい知見を発表 固体プロトン伝導体に関する国際会議で優秀発表賞を受賞

昨年10月27日から5日間、オンラインで開催された固体プロトン伝導体に関する世界最大の国際会議20th Solid State Proton Conductorsにおいて、廣田夕貴さん(生命科学専攻博士後期課程2年・共生機能材料科学研究室)の発表が「優秀発表賞」に選ばれました。同賞は、本国際会議における発表内容が特に優秀であると認められた者に授与される賞で、世界でも数人しか与えられない栄誉ある賞です。

発表タイトルは「弱結合の水をもつ生体高分子キッチンの誘電・イオン伝導特性(発表者:廣田さん・松尾康光教授)」で、生体高分子の一つ

であるキッチンのプロトン輸送機構について新しい知見を報告したという内容です。キッチンは蟹の甲羅などに含まれ、年間数億トンが廃棄されています。本研究は、廃材を活用しエネルギーに変換するサステイナブルな発想から生まれました。今後、「光合成建



築」の心臓部である光バイオ燃料電池の開発などに利用されます。

## 注目 Attention

### 本学発の研究テーマ「光合成建築」とは?

光バイオ燃料電池と建築の融合で、サステイナブル社会の実現に貢献

「光合成建築」は伐採樹木や廃棄植物などの葉緑体を利用した光バイオ燃料電池を建築の素材として一体化したものです。

松尾教授が植物の葉緑体による光合成を利用した光バイオ燃料電池を開発。電解質には廃棄物である魚の鱗を使用し、従来の燃料電池水素極に不可欠な白金触媒が不要で蛍光灯の光でも発電するなど環境負荷を抑えながら優れた機能を実現しました。

同時期に「光合成と建築」の関係を探っていた住環境デザイン学

科の川上比奈子教授が、この電池を屋根や窓などの建築エレメントに一体化できると着目し共同研究につながりました。

光合成建築は、国内外の技術展やメディアで、サステイナブル社会の実現に貢献する技術として高い関心が寄せられています。



屋根と壁に光合成チューブを活用した駅舎の建築案

## 学生生活

### 予定通りの実施で、学生の大きな喜びに 第47回摂大祭、第9回摂友祭を開催

昨年10月30日・31日に摂大祭(寝屋川キャンパス)、10月31日に摂友祭(枚方キャンパス)を開催しました。

摂大祭では、各課外活動団体による演奏やダンスなどの活動成果の披露、俳優の本郷奏多さんによるスペシャルトークショー、ワクワクさんでお馴染みの久保田雅人さんによる講演会などを実施。摂友祭では、課外活動団体による演奏やダンスの披露、大学クイズ大会、ゲスト(ロザン・紅しょうが・マユリカ)に

よる漫才とトークショーを実施しました。在学生限定参加と動画配信での開催でしたが、コロナ禍において先行きが見えない中、予定通り実施できたことが学生にとって何よりの喜びとなりました。



大いに盛り上がった摂大祭

摂友祭当日の動画はこちら



## 看護学部

## 薬学部

## 農学部

### 地域と連携し、住民の健康づくり活動を支援 学生が交野市松塚地区で健康チェックを実施

昨年12月19日、看護学部、薬学部および農学部の学生が松塚地区の62人の参加者を対象に松塚ふれあい館(交野市)で、体組成計測、骨密度計測、握力計測など「長生き」の決め手となる7項目による「アクティブエイジング健康チェック」を行いました。

測定数値が基準値内でない場合には、改善のための簡単な運動をレクチャーし、教員による健康相談も実施。学生らは、「数値の結果について分かりやすく説明するのが難しかった。住民の方との触れ合いは学べることが多くあった」と語りました。

#### 「松塚健康プロジェクト」チーム

2015年度に看護学部と薬学部が交野市松塚地区と連携して設立。地域活性化に向けた健康づくり活動を行っています。住民の方に健康への意識を高めてもらうとともに、学生にも有意義な教育の機会となっています。昨年度はコロナ禍で活動ができませんでしたが、今回は農学部も加わり実施しました。



参加者の健康相談に対応する学生たち

## 奨学金

### ■ 出願書類配付日程

	奨学金の種類	対象学部・研究科	日時	場所
学部	日本学生支援機構(貸与)奨学金 高等教育の修学支援制度 (日本学生支援機構(給付)奨学金・授業料等減免)	全学部	4月5日(火)~12日(火) 9:00~17:00	寝屋川キャンパス 学生課(2号館2階) 枚方キャンパス 枚方事務室1(1号館1階)
	大学院	日本学生支援機構(貸与)奨学金	理工学研究科・経済経営学研究科・ 法学研究科・国際言語文化研究科	4月4日(月) 16:00~16:30
薬学研究科・看護学研究科			4月4日(月) ガイダンス終了後	枚方キャンパス 枚方事務室1(1号館1階)

● 上記の奨学金を希望する学生は、上記日時に書類を受け取りに来てください。学部生の出願方法の詳細は動画配信(3月下旬に学生用ポータルサイトで通知予定)します。

● 学内一般奨学金については、2022年度より学業奨励スランシップに名称および制度変更を予定しています。なお、内容は学生用ポータルサイトで事前通知しています。 **日本学生支援機構**

● 大学院学内奨学金(給付制・大学院全年次対象)の募集については、5月下旬に学生用ポータルサイトで通知予定です。 **進学資金シミュレーター**

注1: 高等教育の修学支援制度を希望する学生は、日本学生支援機構ホームページ内の「進学資金シミュレーター」(https://shogakukin-simulator.jasso.go.jp)の「保護者の方向け」のシミュレーション結果を印刷のうえ、上記日時に持参してください。

注2: 奨学金に関する連絡は学生用ポータルサイトにより行います。見落としなどは各自の責任になりますので、毎日確認を習慣づけてください。

奨学金出願書類配付日程を変更する場合も学生用ポータルサイトにより行います。

注3: 貸与奨学金は卒業後返還が必要です。給付奨学金であっても成績不振・大学処分を受けた場合は、返還が必要になることがあります。



### 2021年度 秋期教育懇談会を開催

2021年度秋期教育懇談会(摂南大学後援会主催)を昨年10月から11月にかけて、本学会場、学外4会場で開催しました。対面形式で実施した本学会場では、個別懇談ブースに飛沫感染防止パネルを設置し十分な距離を確保するなど、新型コロナウイルス感染症対策を講じたうえで実施しました。学外会場では、会場と本学をオンラインでつなぎ、参加された皆さまにはビデオ通話で本学教員と懇談いただきました。

各会場合わせて330組456人の保護者および保証人の皆さまにご参加いただきました。

今後も教育懇談会を通じて保護者の方々と大学との架け橋となる活動を行ってまいります。

#### ■2021年度開催会場(年間)

##### ●春期教育懇談会

新型コロナウイルス感染症拡大により中止

保護者向け就職セミナー動画を作成し、本学ホームページに掲載(視聴は昨年9月末まで)

##### ●秋期教育懇談会

本学会場(寝屋川・枚方)

学外会場(岡山・福岡・福井・奈良)

#### 教育懇談会とは

摂南大学後援会では、ご家庭と大学の連携の一つとして、学部学生の保護者および保証人を対象に教育懇談会を春と秋の年2回開催しています。教員との個別懇談の機会を設け、教員は事前にご子女と面談し、日頃の学修の状況などを把握したうえで懇談に臨んでいます。また、教育懇談会は、ご子女が在籍している同じ学部学科の「保護者同士の交流の場」としての意味も有しています。今抱えている問題や心配事、質問がございましたら、ぜひこの機会をご活用ください。

#### 本学ホームページ 後援会サイト

<https://www.setsunan.ac.jp/family/kouenkai/education.html>



#### 2021年度 秋期教育懇談会の様子



個別懇談(本学会場)



オンラインでの個別懇談(学外会場)

#### 本学会場(枚方)

大学で個人の懇談会があることに驚きました。先生方が一人ひとりの学生をよく見てくださっていることに安心するとともに感謝しております。これからもよろしく願いいたします。(農学部)

初めて参加しましたが、先生のお話も分かりやすく、授業や大学の様子を知ることができました。子どものこともきちんと見ていただいているようで、丁寧に指導されておられる印象を持ちました。コロナ禍で大変な中、対面での懇談会を開催していただきありがとうございました。(理工学部)

#### 本学会場(寝屋川)

コロナ禍での入学だったため、大学生活と私生活について大変心配しておりました。先生と面談する前に、まず後援会役員の方とお話し、保護者の目線でご意見を頂戴し大変参考になりました。「ちゃんと授業を受講しているだろうか」「前期試験の結果を踏まえて大学側はどのような評価をされているのだろうか」「コロナ禍のオンライン授業できちんと理解して付いていけているだろうか」「友達はできただろうか」など聞きたいことはたくさんありましたが、担任の先生から丁寧に説明いただき、安心できました。(薬学部)

#### 学外会場(福井)

## 保護者の皆さまからのご感想

参加された保護者の皆さまからの寄稿の一部を紹介します

#### 学外会場(奈良)

オンラインでの懇談は初めての経験でしたが、面談ブースにはアクリル板が設置され、適切な距離も保たれており、感染対策に十分留意していただいていたおかげで安心して相談できました。先生にリラックスした雰囲気を作っていただき、忌憚なく会話できました。大学での様子を聞き、質問にも丁寧に回答いただき、とても有意義な時間でした。またこのような機会があれば、ぜひ参加したいと思います。(経営学部)

#### 学外会場(福岡)

ほとんど連絡のない娘の様子を知りたくて、ワクワクしながらオンライン会場へ。遅刻せず授業に出席していること、同級生とコミュニケーションが取れていることなどを聞いて安心しました。また担任の先生のハキハキと話される活力、一言ひと言に愛情を感じ取ることができ、娘が素敵な先生と出会えたことに嬉しくなりました。お忙しい中、お時間を割いていただき本当にありがとうございました。(法学部)

離れて暮らしているため、子どもと顔を合わせて話す機会がなかなか持てず、試験など大切な時期にどのようにアドバイスしたり接したりすればいいか分からずしていました。今回の懇談で、大学での様子を知ることができ、それが見えてきたように思います。今後もこのような機会をいただけるとありがたいです。(薬学部)

#### 学外会場(岡山)

# 2022年度 入学宣誓式を行います

新型コロナウイルス感染症対策を講じたうえで、入学宣誓式・新入生歓迎行事を実施します。

**日時** 2022年4月7日(木) 14:00～

**場所** 大阪城ホール(大阪市中央区)



※新型コロナウイルス感染症対策による会場収容人数の関係上、保護者の方はご入場いただけませんので、何卒ご了承ください。(待合室等もございません)  
※詳細については、本学ホームページにて最新情報をご確認ください。

**内容**

〈新入生歓迎行事〉在学生による企画・進行でお届けします。

- ◆ 在学生による「ダンス・音楽パフォーマンス」「先輩からのメッセージ」
- ◆ 在学生・教員から新入生への「タスキリレー」など

## 2021年度 学位記授与式

**実施日** 2022年3月24日(木)

**場所** 寝屋川キャンパス

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、実施時間の分散などの対策を講じたうえで実施します。保護者の方のご参列はご遠慮ください。  
※詳細については、本学ホームページにて最新情報をご確認ください。

## 学園創立 100周年記念募金

本学園ならびに本学の取り組みにご支援をお願いします。

2022年、常翔学園は創立100周年を迎えます。これを記念し、本学の教育および研究の振興・充実を図るため、下記の記念事業を計画しています。皆さまからのご支援を賜りますようお願いいたします。

### 摂南大学の推進事業の種類

- キャンパス整備事業
- プロジェクト支援事業
- 奨学金充実事業
- 1. 学生支援プロジェクト
- 学校運営支援事業
- 2. 地域連携支援プロジェクト
- 課外活動支援事業
- 3. Smartキャンパス整備プロジェクト



### 【募金に関する情報】

<https://www.josho.ac.jp/100th/donations/>

2023年4月開設

## 現代社会学部

【仮称・設置構想中】

道なき未知へ、挑め。

Smart and Human  
摂南大学



学部設置に合わせて、本学が推進するアクティブ・ラーニングを中心とする新しい学びのスタイルに相応した教育環境を備える新校舎の建設も計画しています。

- **設置位置** 寝屋川キャンパス(大阪府寝屋川市池田町17番8号)
- **入学定員** 250人(収容定員1000人)程度
- **分野構成** ソーシャルイノベーションコース/ライフデザインコース/メディアコミュニケーションコース

※設置計画は予定であり、変更になる場合があります。

## 2022年4月、2学部が変わります



外国語学部から「国際学部」に改組します。



2学科を1学科に統合し、新しい4つのコースに改編します。

さ  
や  
け  
き

### ◆「さやけき」とは

「さやけき(清けき)」は、明るい、清々しい、清く澄んでいるなどの意味を表します。大学歌に「学風さやけき摂南の」の詞があるとおり、本学の明るく、若さあふれる清々しいイメージを象徴する言葉です。



### ◆表紙の人

農学部が枚方市および生産者と連携し取り組んだ「すもサイダー開発プロジェクト」。所属学科の専門性を発揮し、プロジェクトメンバーとして携わった北口愛美さん(農業生産学科2年・写真左)、長井彩華さん(食品栄養学科2年・写真中央)、井上涼平さん(農業生産学科2年・写真右)(本誌P4でも紹介しています)

～摂南大学は2025年に創立50周年を迎えます～

Smart and Human  
摂南大学

- 法学部 ■ 外国語学部 ■ 国際学部(2022年4月開設)
- 経済学部 ■ 経営学部(2022年4月改編) ■ 理工学部
- 薬学部 ■ 看護学部 ■ 農学部(2020年4月開設) ● 大学院
- 現代社会学部(仮称・2023年4月開設、設置構想中)

発行日: 2022(令和4)年3月10日  
発行: 摂南大学 学長室 企画課  
〒572-8508 大阪府寝屋川市池田町17-8  
U R L : <https://www.setsunan.ac.jp>